

## 平成 28 年度「滋賀県防災キャンプフォーラム」

地域において子どもの体験活動や防災に関わる団体・指導者などを対象に、本県で実施した防災キャンプの事例発表や講演をとおして、子どもたちが主体として参画する体験活動の成果を共有し、地域防災に関わる関係者の学びを深めるため、標記フォーラムを開催しました。

### 【日時】

平成 28 年 12 月 2 日（金） 13：20～16：30

### 【会場】

滋賀県危機管理センター 大会議室

### 【対象】

- ・ 行政関係者（市町職員、公民館等職員）
- ・ 社会福祉協議会、ボランティアセンター職員等
- ・ 学校関係者      ・ しがこども体験学校登録団体関係者      ・ 一般県民（自主防災会等）



### 【参加者】

76 名

### 【開催日程・内容】

日 程	内 容
13：00	受付
13：20	開会行事 開会あいさつ、日程説明
13：30	事例発表 ①「さくらっ子防災通学合宿」の取組 発表者 さくらっ子防災通学合宿実行委員会 副実行委員長 嶋村 優宏 氏 ②「大津市防災キャンプ推進事業」の取組 発表者 大津市教育委員会事務局生涯学習課 主幹 山村 和義 氏
14：20	講評 同志社大学 社会学部 教授 立木 茂雄 氏
14：30	休憩
14：40	講演 「防災リテラシーを高める防災キャンプとは」 講師 同志社大学 社会学部 教授 立木 茂雄 氏
16：00	閉会 危機管理センター施設見学（希望者）

12月2日（金）、滋賀県危機管理センター大会議室において、平成28年度「滋賀県防災キャンプフォーラム」を開催しました。

### 【事例発表】

#### ○日野町「さくらっ子防災通学合宿」

子どもたちが地域の公民館で、一定期間寝泊まりしながら学校に通う「通学合宿」に、防災教育プログラムを組み込んだ「防災通学合宿」の目的や実施体制等を御説明いただきました。実際に地域で起こりうる、鈴鹿西縁巨大地震を想定した避難所体験や避難所運営ゲーム（HUG）、地元消防団の協力のもと行われた防災訓練等、防災教育プログラムについても、活動の様子がよくわかるように発表いただきました。



#### ○大津市「防災キャンプ」

小学校の体育館を避難所と想定して、市内2カ所で実施された防災キャンプについての概要を御説明いただきました。キャンプでは、起震車体験や炊き出し訓練、ロープワーク等の活動に加え、熊本地震の被災地支援へ行った職員からの状況報告も実施されました。また、ユースボランティアが参加されたことについても説明があり、地域の青少年指導者の養成についても触れながら発表いただきました。



### 【講評】同志社大学社会学部教授 立木茂雄氏

- どちらの取組も非常に熱心な取組だった。
- いろいろな団体が実行委員会として関わっている。特に、日野町は中学生、大津市はユースボランティアが参加していた。大人と子どもだけでなく、そのような若者が参加し、斜めの関係づくりをすることが重要。
- どちらもテーマが明確になっていた。
- 日野町ではプログラムの他にも、地域での脅威について知れる環境づくりが工夫されていた。
- 大津市では、熊本地震の状況について知ってもらう取組がされていた。脅威について知ることは重要である。
- 災害時要援護者について考えられる取組を今後期待する。



## 【講演】「防災リテラシーを高める防災キャンプとは」

同志社大学社会学部 教授 立木茂雄 氏

防災キャンプの取組をどう考えていくのか、何をめざすべきなのか、達成すべきことは何なのか、ということについてお話しいただきました。（以下要点整理）

### 1. 滋賀県は「土手の花見の防災」をめざしている

滋賀県では、生活の一部に防災を入れ込む「生活防災」を県の方針としている、また、大事な視点として、1. 災害を「我が事」と思う「輪が広がる」こと、2. 減災・防災に関する地域の「知恵が伝わる」こと、3. 地域の構成員の持つそれぞれの減災・防災に関する「強みを活かせる」ことの三つがある。滋賀から全国へ広がった「かまどベンチ」も地域の方が一緒に作ることで、災害を我が事と思うきっかけになる。

### 2. これまでの防災キャンプの活動のふりかえり

前述の三つの視点をもとにふりかえると、地域内の様々な主体との連携・協働が進んできたこと、ボランティア・NPOや消防団の強みが活かされ始めていることが成果であり、民生委員や、保健・医療関係者との連携がこれから取り組んでもらいたいことである。また、「滋賀県学校防災の手引き」をもとにふりかえると、キャンプ地内だけでなく、キャンプ地のまわり（地域・近隣）にも支援を必要とする人がいる、という視点を持つことが今後大切だということがわかる。

### 3. 人は何故逃げないのか？

避難準備情報の発令を誤解してはいけない。「準備をしておけばいい」は大きな間違いである。防災リテラシーを高めることが、リスクを回避しようとする行動につながる。

### 4. 防災リテラシーについて

防災リテラシーとは、「災害に対して、脅威を**理解**し、必要な**備え**などをしていざというときに適切な**行動**をとっていける力」で、防災キャンプは、防災リテラシーを高める防災教育活動の一環として設計すべき。限られた時間に迅速な意思決定が人の命を救う。それを可能にするのが防災リテラシーである。

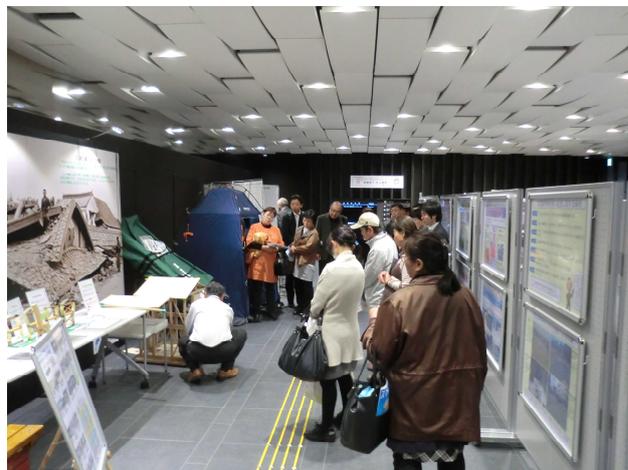
### 5. 平成28年度の防災キャンプを防災リテラシーの視点からふりかえる

防災キャンプ版の防災リテラシー尺度を開発し、今年度参加した子どもたちの事前事後の変容をみとった。3か所の取組とも、「友だちより私は災害についてよく知っている。」という項目は向上した。この結果をもとに、次への取組に生かしていただきたい。

今回のフォーラムをとおして、今後も学校・家庭・地域が連携、協働を図り、子どもが主体となる防災教育はもとより、地域のつながり・絆を強化し、地域の教育力向上を図るとともに、さらなる防災教育の推進の必要性を再認識しました。

### 【危機管理センター見学】

閉会后、二班に分かれて危機管理センターの見学を行いました。危機管理センターの職員の説明のもと、普段見ることのない施設もあり、参加者の方は熱心に話を聞いておられました。



1階 常設展示



2階 災害対策本部室



3階 オペレーションルーム

なお、参加者アンケートの結果と感想（一部抜粋）については、別添で掲載しておりますので、ご覧ください。

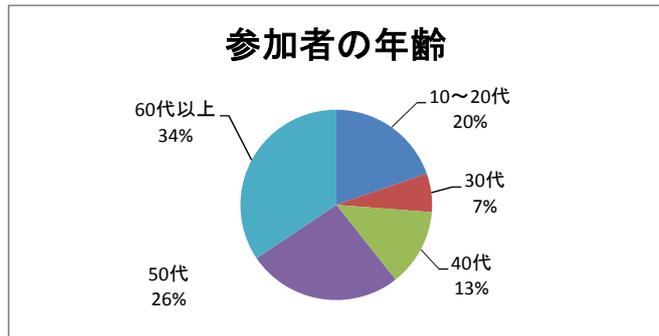
# 平成28年度「滋賀県防災キャンプフォーラム」アンケート結果

※回収率 80.3%  
(61名/76名)

Q1

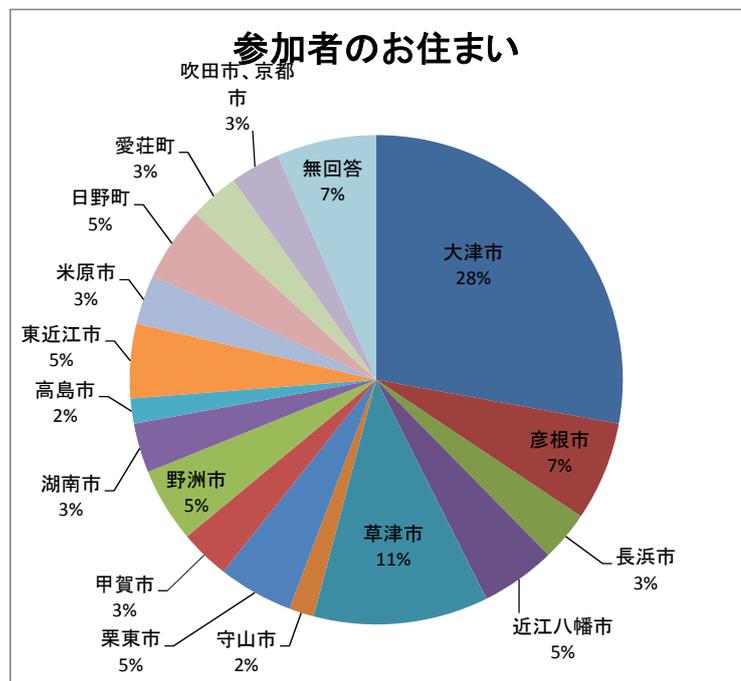
## ・参加者の年齢

	年齢	人数	割合
1	10～20代	12	19.7%
2	30代	4	6.6%
3	40代	8	13.1%
4	50代	16	26.2%
5	60代以上	21	34.4%
合計		61	100%



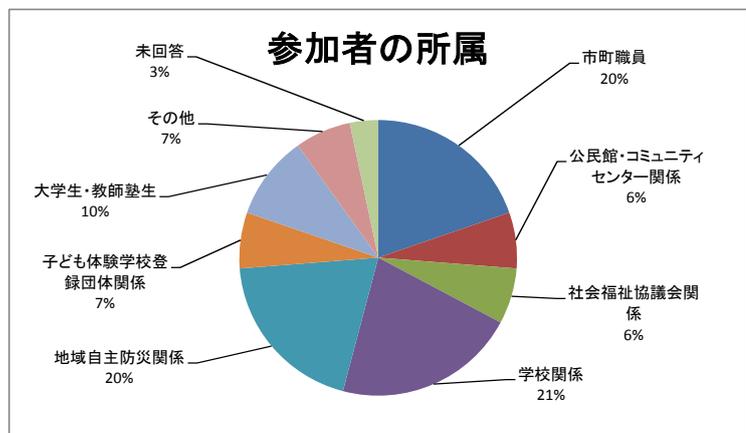
## ・参加者のお住まい

	市町名	人数	割合
県内	大津市	17	27.9%
	彦根市	4	6.6%
	長浜市	2	3.3%
	近江八幡市	3	4.9%
	草津市	7	11.5%
	守山市	1	1.6%
	栗東市	3	4.9%
	甲賀市	2	3.3%
	野洲市	3	4.9%
	湖南市	2	3.3%
	高島市	1	1.6%
	東近江市	3	4.9%
	米原市	2	3.3%
	日野町	3	4.9%
	愛荘町	2	3.3%
県外	吹田市、京都市	2	3.3%
	無回答	4	6.6%
合計		61	100%



## ・参加者の所属

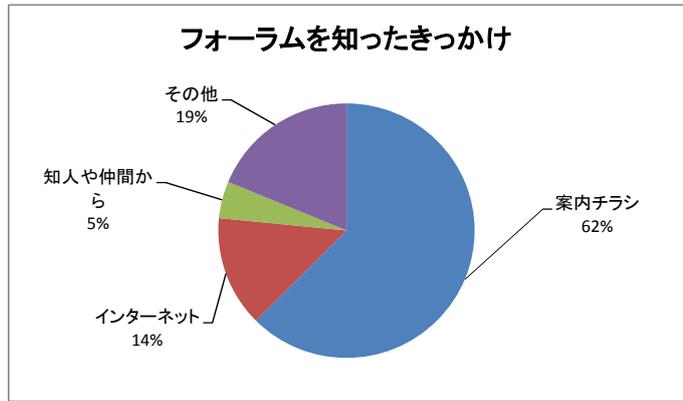
	所属	人数	割合
1	市町職員	12	19.7%
2	公民館・コミュニティセンター関係	4	6.6%
3	社会福祉協議会関係	4	6.6%
4	学校関係	13	21.3%
5	地域自主防災関係	12	19.7%
6	子ども体験学校登録団体関係	4	6.6%
7	大学生・教師塾生	6	9.8%
8	その他	4	6.6%
9	未回答	2	3.3%
合計		61	100%



Q2 このフォーラムを何で知りましたか  
(複数回答可)

	方法	人数	割合
1	案内チラシ	40	62.5%
2	インターネット	9	14.1%
3	知人や仲間から	3	4.7%
※4	その他	12	18.8%
合計		64	100%

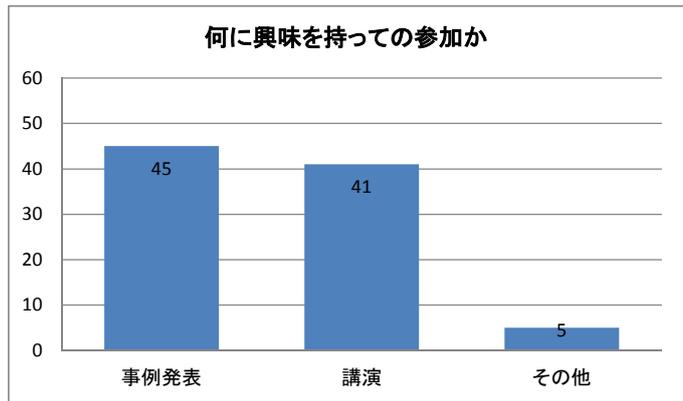
- ※4 その他
- ・県からの案内通知
  - ・自治会での回覧
  - ・しらがメール
  - ・防災士会からの連絡



Q3 何に興味をもってフォーラムに参加しましたか？  
(複数回答可)

	内容	人数	割合
1	事例発表	45	49.5%
2	講演	41	45.1%
※3	その他	5	5.5%
合計		91	100%

- ※3 その他
- ・危機管理センター見学
  - ・どんな方々が参加されているのか 等

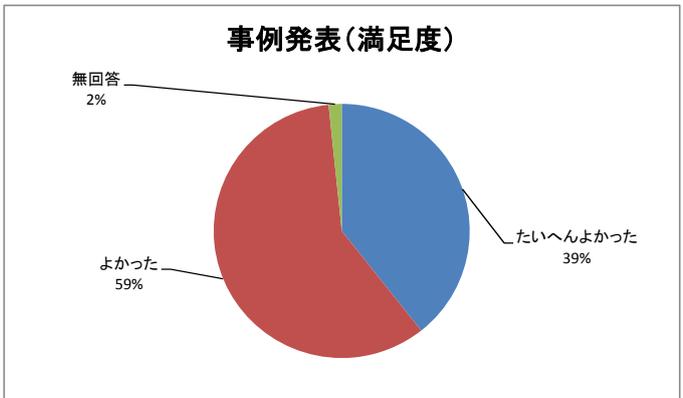


Q4 それぞれの内容について、感想を選んでください。

(1) 事例発表

	満足度	人数	割合
1	たいへんよかった	24	39.3%
2	よかった	36	59.0%
3	無回答	1	1.6%
合計		61	100%

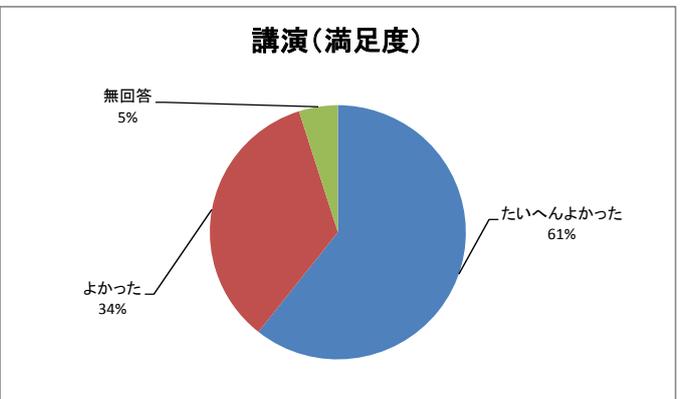
※理由については、次ページに記載



(2) 講演

	満足度	人数	割合
1	たいへんよかった	37	60.7%
2	よかった	21	34.4%
3	無回答	3	4.9%
合計		61	100%

※理由については、次ページに記載



#### Q4 理由(一部抜粋)

1 たいへんよかった 2 よかった 3 あまりよくなかった 4 よくなかった

満足度	(1)事例発表
1	実践事例を聞き、どういった目的、ねらいで、どのようなプログラムを行ったのかを知ることができました。
1	実活動、生活の中で防災合宿ということで、災害時と同様な体験ができたのではないかと思います。当町内会においても大人の防災活動は進んでいるが、子どもの体験活動は課題で参考になりました。
1	大津市は青少年を中心に、日野町は中学生ボランティアを中心にと、どちらも未来を担う子どもを育てようとしているところがとてもよかった。このような防災の体験を一度でもしている子どもは、いざという時に地域の中心となって地域と人等を守ってくれ、先頭に立って動いてくれるのではないかと思います。
2	それぞれの市町(機関)が工夫をこらして取り組まれていることを知れた。きっと他の地区もされているだろうからもっと知りたいと思った。子どもたちを支援者として育てる上で有効であると感じた。地域の方が積極的に防災に取り組まれることで避難所開設時の混乱は軽減されるように思う。
2	取組のねらいを明確にされていた。活動をサポートするスタッフの協力方法が参考になった。
2	防災キャンプの検討を始めるきっかけとなった。

満足度	(2)講演
1	漠然と感じていた防災キャンプの大切さについて、人に語れる具体的な知識を得ることができました。
1	防災リテラシーの重要性を理解することができました。大変有意義な内容でとてもよかった。
1	防災が不十分な理由やリスクの回避の心理学的な観点からも知ることができ、自己の防災リテラシーを見直すきっかけとなった。
1	普段の生活が防災につながるという話を聞き、大変心に響きました。
1	防災リテラシー尺度による分析はとても興味深かった。
1	「土手の花見の防災」という言葉が印象的でした。防災リテラシーの理論を初めて知りました。
2	防災リテラシーについていろいろなデータを示しながら説明していただき、わかりやすかった。
	避難をする時、行動を起こせるかは、防災リテラシーの有無が大きく関わっていることがわかりました。

#### Q5 本フォーラムに御参加いただいて、参考になったことや今後取り組んでみたい内容がありましたら、お書きください。(一部抜粋)

やはり日常的に地域・学校・行政等が連携していく必要があるのだということをあらためて考える機会になりました。
学校と連携し、デイキャンプを実施したが、次回開催するにあたり、防災学習の内容を企画する上で参考になった。
かまどベンチを導入したい。導入するにあたって助成していただくような制度があればよい。
地域の防災会で子どもたちを巻き込んだ企画をしていきたい。講演内容を回覧等で地域の人たちに知らせたい。

#### Q6 内容に対する御意見・御感想がありましたら、御自由にお書きください。(一部抜粋)

防災施策の中で、身体障害者、老人、子どもへの配慮を取り入れることの重要性に改めて気づきました。
「防災」「キャンプ」一般的にはつながりにくく、地域で様々な団体等と力を合わせてやっていかなければいけないため、地域の力を高めるのによい活動だと思う。
「防災キャンプの実践」について、市町教育委員会職員や自治会役員に対して研修会を開催してほしい。
もっと地元の教育委員会の方々、危機管理課の人、学校関係者などいろんな人に今日のお話を聞いてほしかった。
フォーラムですので、少しは討論できる場、時間があればよかったのではと思います。

## 平成 28 年度「滋賀県防災キャンプフォーラム」開催要項

- 1 趣 旨 地域において、子どもの体験活動や防災に関わる団体・指導者などが集まり、滋賀県で実施した防災キャンプの事例発表や講演をとおして、防災教育の観点に立った、子どもたちが主体として参画する体験活動の成果を共有することで、活動の啓発や推進を図るとともに、地域防災に関わる関係者の学びを深める。
- 2 主 催 滋賀県教育委員会
- 3 参加対象 地域において防災に関する体験活動に関わる団体・指導者等  
・行政関係者（市町職員、公民館・コミュニティセンター職員）  
・社会福祉協議会、ボランティアセンター職員等  
・教員（学校防災教育コーディネーター担当者等）、学校関係者  
・しがこども体験学校登録団体関係者、通学合宿等子どもの宿泊体験活動関係者  
・一般県民
- 4 日 時 平成 28 年 12 月 2 日（金） 13：20～16：10
- 5 会 場 滋賀県危機管理センター大会議室（大津市京町四丁目 1-1）
- 6 日 程
- |             |   |
|-------------|---|
| 13：00～13：20 | 受付  |
| 13：20～13：30 | 開会行事（開会あいさつ、日程説明）   |
| 13：30～14：10 | 事例発表  |
|             | ① 「日野町さくらっ子防災通学合宿」の取組<br>発表者：さくらっ子防災通学合宿実行委員会<br>副実行委員長 嶋村 優宏 氏 |
|             | ② 「大津市防災キャンプ推進事業」の取組<br>発表者：大津市教育委員会事務局生涯学習課<br>主幹 山村 和義 氏      |
| 14：10～14：20 | 講評  |
| 14：20～14：30 | 休憩  |
| 14：30～16：00 | 講演  |
|             | 演題 「防災リタラシーを高める防災キャンプとは」<br>同志社大学 社会学部<br>教授 立木 茂雄 氏            |
| 16：00～16：10 | 質疑応答<br>アンケート記入<br>閉会   |
| 16：10～      | 危機管理センター見学（希望者）   |

- 7 参加料 無料
- 8 定員 100名(先着順)
- 9 申込方法 必要事項(氏名・電話番号・所属・危機管理センター見学希望の有無)を御記入の上、FAXまたはメールにてお申し込みください。「しがネット受付サービス」での受付も行っております。  
※申込用紙(案内チラシ)は、滋賀県学習情報提供システム「におねっと」(<http://www.nionet.jp>)からもダウンロードしていただけます。
- 10 申込締切 平成28年11月25日(金)
- 11 申込先 滋賀県教育委員会事務局生涯学習課  
地域・家庭教育係 担当:辰己  
TEL : 077-528-4652  
FAX : 077-528-4962  
E-mail : [tatsumi-tsuyoshi@pref.shiga.lg.jp](mailto:tatsumi-tsuyoshi@pref.shiga.lg.jp)
- 12 その他 本フォーラムは、文部科学省委託事業「子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業」により開催する。

# 滋賀県 防災 キャンプ フォーラム



滋賀県で実施した防災キャンプの事例発表や講演をとおり、防災教育の観点に立った子どもたちが主体となり、参画する体験活動の成果を共有して、地域防災に関わる関係者の学びを深めます。

平成28年 **12.2** (金) 13:20～16:10

閉会后、危機管理センターの見学を行います。(希望者)

**参加  
無料**

会場 ▶▶▶ 滋賀県危機管理センター 大会議室

定員 ▶▶▶ 100名(先着順)

アクセス



JR大津駅・京阪島ノ関駅から徒歩約8分  
※公共交通機関でお越しください。



講演 「防災リタラシーを高める  
防災キャンプとは」

講師 立木 茂雄 氏

同志社大学社会学部教授

## 事例発表

- 「日野町さくらっ子防災通学合宿」の取組
- 「大津市防災キャンプ推進事業」の取組

## 申込方法

申込書(裏面)をFAXまたはメール  
申込書の様式については、滋賀県学習情報提供システム「におねっと」様式集からダウンロードできます。  
また、「しがネット受付サービス」でも受け付けを行っています。

【問合せ・申込先】滋賀県教育委員会事務局生涯学習課 地域・家庭教育係

☎077-528-4652 fax077-528-4962 ✉ma06@pref.shiga.lg.jp